

# 共に考ええる 住宅デザイン

甲斐 徹郎

○500

## 輻射熱の制御

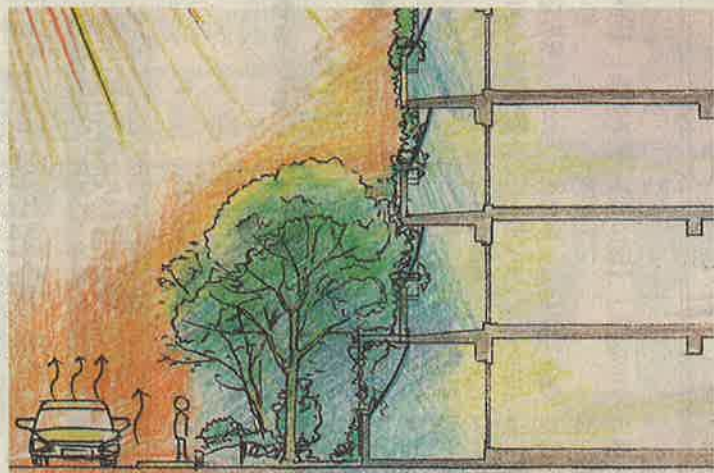
前々回の私のコラム (No.41)で「微気候」の話をしました。微気候とは、自分達の住まいを取り囲む、狭い範囲での、その場所特有の気候のことを言います。

この微気候は意図的にデザインすることができず。例えば、東京の我が家は、快適な微気候を創り出すことで、夏、外気温36度の時に、室温27度で、クーラーなしで快適に過ごしています。沖縄でも十分に応用できる微気候の調整手法を、数回にわたり、ご紹介したいと思えます。その第一回は「輻射熱」のコントロールについてです。

真夏の直射日光にさらされたアスファルトの表面温度は何度くらいになっているかと思いませんか？ 東京で実測してみると65度に達していました。

濃い色の車のボンネットはなんと87度です。夏は気温が高いというだけで、暑く感じるのではなく、こうした異常に高温になった物から発せられ

# 侵入防ぐ緑のカーテン



樹木の壁で輻射熱の侵入は防げる

## 植物が水の膜で覆う

自分の家の周りを見渡してみて下さい。もし、そこに太陽の熱を吸収して高温になりそうなアスファルト道路などがあれば、その熱は、輻射熱という熱線として、あなたの住まいの中へ放射されます。窓を閉めて

も、カーテンを閉めても、入ってくる、大変暑い熱です。夏、涼しく過ごすためには、この輻射熱を制御することがたいへん重要なことです。では、どうやって制御すればよいのでしょうか。答えは、植物を活用することです。イラストのように輻射熱の発生源に対して樹木で壁をつくるようにすれば、輻射熱の侵入を防ぐことができます。この効果を確かめたいのであれば、簡単な実験方法があります。用意するものは、一枚のすだれと、霧吹き、それに放射温度計です。このことと同じ働きをするのが、植物なのです。建物全体が緑で囲ま

れると、植物の力で地下水を汲み上げていますから、建物は水の膜に覆われているのと同じ状況になります。写真は、こうした緑の効用を活用した「緑のカーテン」と呼んでいる、我が家での実践例です。その効果は、私の想像以上に、輻射熱を制御することの重要性を実感するきっかけとなりました。

(マーケティングコンサルタント)

◇  
微気候の調整手法については、エゴロシ住宅市民学校編「住まいのエコアップマニュアル」(送料込み1000円)に詳しく説明されています。興味のある方は、事務局 ☎03(5450)2611までお問い合わせください。



緑のカーテン。使用した植物はヘチマ、ヒョウタン、ニガウリ、キュウリなど。植え付けは、5月の連休中。8月初旬には、このように上まで育った



「緑のカーテン」が完成する前の状況